

商業教員養成所一覽

目次

一 學年曆	一頁	一生徒心得	一七
一 沿革概略	一	一主事	一九
一 實業學校教員養成規程	二	一生徒現員	一九
一 商業教員養成所規程	五	一生徒年級表	二〇
總則	五	一生徒年齡表	二〇
學科課程	六	一生徒身體檢查統計表	二二
學年、學期、休業	九	一生徒入學前卒業學校別及府縣別表	二三
入學、在學、退學	一〇	一卒業生及其就職ノ場所	二六
休學	一三	一卒業生府縣別表	三三
試驗、進級及卒業	一三		
一 實業學校教員養成規程ニ依ル補給學資	一五		
支給手續	一五		

商業教員養成所一覽

學 年 曆

(本校ニ同シ)

沿革概略

本所ハ明治三十二年三月文部省令第十三號實業學校教員養成規程ニ依リ商業學校及商業補習學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スルノ目的ヲ以テ高等商業學校内ニ設置シ同校長之ヲ管理ス五月高等商業學校教授水島鐵也主任ヲ囑託セラル同月規則ヲ制定ス其要生徒ハ師範學校、中學校若クハ甲種以上ノ商業學校卒業生ニシテ地方長官ノ推薦セル者ノ中ヨリ選拔シ若シ定員ニ滿タサルトキハ一般ニ募集シ試験ニ合格セルモノニ就キ之ヲ選拔ス修業年限ハ二箇年トシ生徒在學中ハ之ニ學資ヲ補給ス九月授業ヲ開始ス

○明治三十五年一月水島鐵也主任ヲ辭シ高等商業學校教授東夷五郎主任ヲ囑託セラル四月東京高等商業學校ニ本所ヲ附設セラル同月東京高等商業學校教授東

寅五郎主事ヲ命セラシ、同月更ニ實業學校教員養成規程ヲ發布セラシ、隨テ本所規程ヲ制定ス、其ノ要、舊規則ニ同シ、十月規程中學資補給ノ章ヲ改正ス
 ○三十六年一月主事東京高等商業學校教授東夷五郎神戸高等商業學校教授ニ任セラレ、二月東京高等商業學校教授佐野善作主事ヲ命セラシ
 ○四十年二月規程中試驗及卒業ノ章ヲ改正ス、十二月規程中ヲ改正ス、是時休學ノ章ヲ設ク
 ○四十二年五月東京高等商業學校教授佐野善作職ヲ辭シ東京高等商業學校教授奈佐忠行主事ヲ命セラシ
 ○四十四年三月規程中ヲ改正ス
 ○四十五年三月試驗、進級及卒業規程中ヲ改正ス

實業學校教員養成規程(本所ニ關スル分、抜抄)

文部省令第九號(明治三十五年四月一日) 明治三十八年文部省令第一六號同卅九年同第一四號及同四十年同第二二號ヲ以テ條項改正
 實業教育費國庫補助法第七條ニ基キ實業學校教員養成規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

シ

第一條 東京帝國大學農科大學本科若クハ實科東北帝國大學農科大學本科農學實科、土木工學科、林學科、水產實科、官立實業專門學校ノ學生生徒ニシテ卒業ノ後實業學校ノ教職ニ従事スヘキ者並東京高等商業學校附設商業教員養成所ノ生徒ニハ學資ヲ補給スルコトアルヘシ
 補給スヘキ金額ハ一箇月六圓以内トス

第二條 前條ニ依リ學資ノ補給ヲ受ケタル者ハ卒業ノ日ヨリ學資ノ補給ヲ受ケタル年限ニ一箇年ヲ加ヘタル期間文部大臣ノ指定ニ依リ實業學校ノ教職ニ従事スヘキ義務ヲ有ス、但必要ノ場合ニ於テハ文部大臣ハ他ノ教職ニ従事スルノ義務ヲ負ハシムルコトアルヘシ

第二條ノ二 學資ノ補給ヲ受ケタル者ニシテ前條ノ義務期間内ニ於テ私費ヲ以テ學校ニ入學シ若ハ外國ニ留學セントスル者アルトキハ文部大臣ハ時宜ニ因リ之ヲ許可スルコトアルヘシ
 前項ニ依リ許可ヲ受ケタル者ノ當該學校ニ在學中若ハ外國留學中ノ期間ハ前

條ノ義務期間ニ算入セス

第二條ノ三 第二條ノ義務期間内ニ於テ文部大臣ノ指定ヲ受ケサルカ爲任意就職シタル者ハ其ノ旨直ニ文部大臣ニ届出ツヘシ其ノ就職ヲ罷メ又ハ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

前條ノ許可ヲ受ケタル者學校ヲ卒業又ハ退學シ若ハ歸朝シタルトキハ直ニ文部大臣ニ届出ツヘシ

第三條 學資ノ補給ヲ受クル者半途ニシテ退學シ若ハ第二條ノ義務ヲ盡ササルトキ又ハ第二條ノ二第一項ノ許可ヲ受ケスシテ入學若ハ留學シタルトキハ補給シタル學資ヲ償還スヘキモノトス但文部大臣ハ事情ヲ酌量シテ其全部又ハ一部ノ償還ヲ免除スルコトアルヘシ

第三條ノ二 第二條ノ規定ニ依リ實業學校及其ノ他ノ教職ニ従事スル者ニ其ノ義務期間内ニ於テ轉任退職若ハ休職ヲ命セントスルトキハ事由ヲ具シ豫メ文部大臣ノ指揮ヲ受クヘシ

第四條 第一條ノ學生生徒ノ員數及各養成所ニ募集スヘキ員數ハ毎年文部大臣

之ヲ定ム

附 則

第五條 本令ハ明治三十五年四月一日ヨリ施行ス

第六條 明治三十二年文部省令第十三號實業教員養成規程ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス但シ該規程ニ依リ現ニ商業教員養成所ニ在學スル生徒ハ東京高等商業學校附設商業教員養成所ノ生徒タルモノトス

前項ノ生徒及東京高等商業學校ノ學生生徒ニシテ從前ノ規程ニ依リ學資ノ補給ヲ受ケタル年限ハ本令第二條ノ年限中ニ算入ス

第七條 明治三十二年文部省令第十三號實業學校教員養成規程ニ依リ義務ヲ有スル卒業者ニ關シテハ尙從前ノ規程ニ依ル

商業教員養成所規程

第一章 總 則

第一條 本所ハ實業學校教員養成規定ニ依リ商業學校ノ教員タルヘキモノヲ養

成スルヲ以テ目的トス

第二條 本所ノ修業年限ハ四箇年トス

第三條 本所ハ授業料ヲ徴收セス

第四條 本所ノ生徒ニハ一定ノ數ヲ限リ在學中學資ヲ補給スルコトアルヘシ

第五條 本所ノ生徒ニシテ在學中學資ノ補給ヲ受ケタル者ハ卒業後學資ノ補給

ヲ受ケタル年限ニ一箇年ヲ加ヘタル期間文部大臣ノ指定ニ依リ實業學校ノ教

職ニ従事スヘキ義務アリ其他ノ者ハ卒業後二箇年間實業學校ノ教職ニ従事ス

ヘキ義務アルモノトス

第六條 生徒心得ハ校長ノ定ムル所ニ依ル

第二章 學科課程

第七條 學科課程ハ左表ノ如シ

科	學年			
	第一	第二	第三	第四
一 修身	一	一	一	一
二 算術	三	二	三	一
三 商業地理		二	二	一
四 商業歴史			二	三
五 簿記	三	二	二	一
六 應用物理學	一			
七 應用化學	三			
八 機械工學		一		
九 法學通論	二			
一〇 經濟通論	一			
一一 商學		三		
一二 經濟學			三	

實業學校教員養成所規程

二五	財政學				二
一六	統計學			一	
一七	私法		三	三	四
一八	憲法				二
一九	英語	九	六	六	六
二〇	商業學		二	七	
二一	商業實踐				九
二二	教育學、教授法			一	一
二三	心理、論理	一	一		
二四	體操	三	三	二	
時間合計		三〇	三〇	三一	三三

統計學及第四年ノ數學ハ隨意科目トス
 第三及第四學年ニ於テ隨時實地授業又ハ見學ヲ爲サシム

第三章 學年、學期及休業

第八條 學年ハ九月十一日ニ始マリ翌年九月十日ニ終ル

第九條 學年ヲ分チテ三學期トス第一學期ハ九月十一日ヨリ十二月二十四日ニ至リ第二學期ハ翌年一月八日ヨリ三月三十一日ニ至リ第三學期ハ四月八日ヨリ七月十日ニ至ル

第十條 年中休業左ノ如シ

但休業中ト雖モ教員ノ見込ニ依リ或學科ノ補習又ハ實業ノ調査ヲ命スルコトアルヘシ

- 一 毎日曜日
- 一 秋季皇靈祭
- 一 神嘗祭
- 一 天長節祝日
- 一 新嘗祭
- 一 紀元節

一 春季皇靈祭

一 神武天皇祭

一 明治天皇祭

一 天長節

一 春季休業 四月一日ヨリ
同月七日ニ至ル

一 夏季休業 七月十一日ヨリ
九月十日ニ至ル

一 冬季休業 十二月二十五日ヨリ
一月七日ニ至ル

第四章 入學、在學、退學

第十一條 本所ハ學年ノ始ニ於テ入學ヲ許ス

第十二條 師範學校、中學校若ハ甲種商業學校卒業生ニシテ年齡滿十七年以上身體壯健品行方正且ツ教員タル志望堅固ナル者ハ試験ノ上入學ヲ許可ス

第十三條 入學試験ハ修身、國語、漢文、書法、作文、數學、地理、歷史、圖畫、物理、化學、博物、英語ノ各科目ニ就キ中學校卒業ノ程度ニ依リ之ヲ行フ

前項ノ學科目ハ時宜ニ依リ文部大臣ノ許可ヲ經テ其ノ一科目又ハ數科目ヲ省

略スルコトアルヘシ

第十四條 師範學校、中學校若ハ甲種商業學校ノ卒業生ニシテ其ノ在學中成績優等ナル者ハ體格検査ノ上試験ヲ用キ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

第十五條 削除

第十六條 募集スヘキ生徒ノ員數及期日等ハ其ノ都度公告スヘシ

第十七條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ保證人一名ヲ立テ誓書ヲ認メ其ノ年九月十日迄ニ本校ヘ提出スヘシ

第十八條 保證人ハ丁年以上ノ男子ニシテ東京市内ニ於テ一家ヲ立テ生徒ノ身分ニ關シ一切引受クルニ足ルヘキ關係及相應ノ資産ヲ有スル者ニ限ル

第十九條 保證人死去若ハ前條ノ資格ヲ失ヒタルトキハ速ニ他人ヲ以テ之ニ代ヘ更ニ誓書ヲ出サシムヘシ

第二十條 削除

第二十一條 生徒若シ學業ヲ怠リ又ハ品行修ラス若ハ疾病等ノ故ヲ以テ成業ノ見込ナシト認ムルトキハ退學セシムヘシ

印紙

誓書

私儀今般商業教員養成所へ入學御許可相成候ニ付テハ御規則ヲ遵守シ專心勉勵可仕又卒業ノ後ハ御規定ノ義務ニ服シ可申候仍テ誓書如此候也

本籍族稱職業

(某子弟又ハ被後見人等)

年月日

氏

名 印

何年何月何日生

宿所 東京市何區何町番地

前書之趣相違無之ニ付拙者保證人ニ相立テ本人ニ係ル一切ノ事件引受可申仍テ保證如斯候也

但貴所御規則ハ總テ承知致シ候也

本籍族稱職業

保證人 氏

名 印

年月日

何年何月生

宿所

東京高等商業學校長何某殿

前書保證人某ハ丁年以上ニシテ當區内ニ於テ一家ヲ立ツル者ニ相違無之候也

年月日

何 區 長 印

第五章 休學

第二十二條 生徒疾病又ハ避クヘカラサル事故ニ因リ滿二箇月以上修學シ能ハスト認ムルトキハ保證人連署ヲ以テ校長ニ願出テ其許可ヲ以テ滿壹箇年以内休學スルコトヲ得其疾病ニ罹リタルモノハ醫師ノ診斷書ヲ添フルコトヲ要ス但シ其疾病平癒シ又ハ事故止ミタルトキハ休學期間内ト雖其旨届出テ就學スルコトヲ得

第二十三條 生徒ノ陸海軍ノ現役ニ在ル者及召集中ノ者ハ校長ノ許可ヲ得テ其間休學シ現役又ハ召集終レハ直ニ其原級ニ復スルコトヲ得

第六章 試驗進級及卒業規程

第二十四條 試験ヲ分チテ學年試験及學期試験ノ二種トス

學年試験ハ其學年中ニ履修シタル學科ニ就キ學年末ニ於テ之ヲ執行ス

學期試験ハ第一學期末ニ於テ各課目ニ就キ之ヲ施行ス但シ每週教授時數一時間ノ學課ニ就キテハ學期試験ヲ省略スルコトアルヘシ

第二十五條 學科目ニ依リ便宜之ヲ數課目ニ分チ其成績ヲ定ムルコトアルヘシ

第二十六條 各學課目學年ノ成績ハ學年試験ノ成績ト學期試験ノ成績トヲ斟酌シテ之ヲ定ム

第二十七條 成績ハ點數ヲ以テ定メ百點ヲ滿點トス

各課目ノ點數五十點以上平均點數六十點以上ヲ得タル者ヲ及第トス但シ五十點未滿ノ課目一科目ナル場合ニ限り特ニ及第トスルコトヲ得

第二十八條 作文書法商業實踐英語及體操ハ平常ノ成績ヲ以テ學期試験ノ成績ニ代フルコトヲ得

第二十九條 學期試験ニ缺席シタル者ハ特ニ校長ノ許可ヲ經ルニアラサレハ學年試験ヲ受クルコトヲ得ス

第三十條 學年試験ニ缺席シ追試験ヲ受ケントスル者ハ其試験期日内ニ其旨ヲ願出ツルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ學期試験ノ成績ト平常ノ勤惰トヲ審査シテ之ヲ許可スルコトアルヘシ

本條ニ依リ試験ヲ施行スル場合ニハ其ノ科目ニ對スル評點ニ係數奇零九ヲ乘シテ得點トス

第三十條ノ二 不合格者ニシテ前學年ニ於テ七十點以上ノ點數ヲ得タル課目ニ就キテハ其試験ヲ省略スルコトアルヘシ

第三十一條 卒業者ニハ卒業證書ヲ授與ス

卒業ノ席次ハ各學年ノ成績ヲ勘合シ其優劣ニ依リ之ヲ定ム

實業學校教員養成規程ニ依ル補給學資支給手續

第一條 明治三十五年文部省令第九號第一條ノ補給學資ハ毎月二十五日(休日ナ_レハ日_ノ下)之ヲ支給ス月ノ央ニ於テ學資ノ支給ヲ止メタルトキハ前項ノ支給日ニ拘ハ

ラス其際支給ス

- 第二條 農業教員養成所、工業教員養成所、商業教員養成所及水産講習所、水産教員養成科生徒ハ入學ノ日ヨリ其他ノ學生生徒ハ誓書提出ノ日ヨリ學資ヲ支給ス
- 第三條 疾病ニ依リ引續キ缺課スルコト六十日ヲ踰ユル者又ハ私事ノ故障ニ依リ引續キ缺課スルコト二週日ヲ踰ユル者ハ其翌日ヨリ缺課中學資ヲ支給セス
校則ニ依リ休學ノ許可ヲ受ケタル者若ハ停學ニ處セラレタル者ハ其休學停學中ハ學資ヲ支給セス
- 第四條 夏季休業中ハ學資ヲ支給セス但シ夏季休業中ト雖學科ノ補習又ハ實業ノ調査ヲ命セラレタルトキハ其間學資ヲ支給ス
- 第五條 學資ヲ補給スヘキ日數一箇月ニ滿タサルトキハ其月ノ現日數ニ依リ日割計算ヲ以テ之ヲ支給ス
前項日割計算ノ場合ニ於テ錢位未滿ノ端數ヲ生スルトキハ之ヲ切捨ツルモノトス

生徒心得

- 第一條 忠孝ヲ旨トシ本分ヲ重シ義務ヲ守リ人ニ接スルニ温良謙讓事ヲ執ルニ誠實果敢以テ真正ノ教育者タルヘキ性格ヲ養成スヘシ平素攝生ニ注意シ身體ノ強健ヲ圖リ以テ快活ノ精神ト進取ノ氣象トヲ養成スヘシ
- 第二條 常ニ教室ノ神聖ナルヲ思ヒ秩序ヲ重シ專心以テ學術ヲ習得スルヲ勉ムヘシ
長上ニ對シテ敬禮ヲ行フヘキハ勿論學生生徒相互ノ間ニ於テモ亦禮讓ヲ貴フヘシ
- 第三條 登校ノ節ハ制服制帽ヲ著用スヘシ
- 第四條 放課ノ時間ト雖靜肅ヲ旨トシ苟モ喧噪ノ行爲アルヘカラス
- 第五條 校内ニ在リテハ所定ノ場所以外ニ於テ飲食喫烟スヘカラス
- 第六條 病氣其他ノ事故ニヨリ缺席セントスルトキハ其理由ヲ記シタル届書ヲ出スヘシ其缺席二週日以上ニ及フトキハ保證人ノ連署ヲ要ス但シ病氣ノトキハ醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ

第七條 生徒又ハ保證人ニシテ氏名ヲ改メ又ハ轉居轉籍シタルトキハ直ニ其旨ヲ届出ツヘシ

第八條 校内ニ於テ事ノ何タルヲ問ハス許可ナクシテ猥ニ會同スヘカラス

第九條 凡ソ告示ハ之ヲ掲クルノ日ヨリ一般ニ知了シタルモノト認ムルヲ以テ常ニ之ヲ注意スヘシ

第十條 學校ノ器物又ハ圖書ハ專ラ鄭重ニ之ヲ取扱フヘシ若シ過チテ汚損又ハ亡失シタルトキハ直ニ其旨ヲ届出テ處置ヲ受クヘシ

第十一條 諸規程ニ悖戾シ若ハ長上ノ命令訓誡ニ從ハサル者ハ各其情狀ニ照シ處罰ヲ加フヘシ

主 事

東京高等商業學校教授理學士 奈 佐 忠 行 静岡縣平民

生徒現員(二十八人) (大正二年十月十五日調)

第三年生(十一人)

八木 助 市 廣島
 菊田 清 一 愛知
 吉田 義 夫 廣島
 齋藤 幸太郎 新潟
 高 松 勤 埼玉
 吉 村 繁 福井
 松井 萬之助 兵庫
 矢部 義 夫 千葉
 金 井 浩 兵庫

第二年生(九人)

白 崎 武 福井
 奥 田 繁 藏 東京
 皆 川 一 茨城
 習 田 敦 兵庫
 原 田 作之助 山形
 杉本 司馬三郎 愛知
 今 井 三 吉 富山
 庄 司 健 治 山形
 今 村 直 人 福岡

主 事 生徒現員

長坂千里長野
樋口浩岐卓
第一年生(八人)
渡部秀雄山形
加藤仙正愛知
松崎實次愛知

提箸蘇一郎栃木
田添喜平次長崎
畑中英太郎愛知
塚田知一東京
神倉佐安神奈川

生徒年級表

(大正二年十月十五日調)

種別	最高	最低	平均
第一年	二五、〇一	一九、〇二	二二、〇七
第二年	二五、〇二	二一、〇一	二三、〇〇
第三年	二七、〇九 _月	二〇、〇五 _月	二四、〇一 _月
第四年	—	—	—
計	—	—	二八

生徒年級表

(大正二年十月十五日調)

種別	最高	最低	平均
第一年	二五、〇一	一九、〇二	二二、〇七
第二年	二五、〇二	二一、〇一	二三、〇〇
第三年	二七、〇九 _月	二〇、〇五 _月	二四、〇一 _月
第四年	—	—	—
計	—	—	二八

生徒身體檢查統計表

(大正二年四月檢查)

學級	檢査項目			胸圍盈虛差	人員
	身長	體重	胸圍盈虛差		
二年生	最大	一六、八二〇 _磅	三八 _分	—	
	最小	一二、六〇〇	二三		
平均	五、三三	一四、四九〇	二九	—	

生徒年級表、生徒年級表、生徒身體檢查統計表

生徒入學前卒業學校別及府縣別表 (大正二年十月十五日調)

平均ハ最大最小ノ平均ニアラズシテ總人員ノ平均ナリ

道 廳 府 縣	種 別	一 年 生		
		平均	最小	最大
北海道	師範學校	五、四〇	五、〇三	五、七八
北海道	中學校	一四、八四〇	一二、一〇〇	一七、八一〇
京都府	商業學校	三三二	二二二	四三二
京都府	小計	三	一	二
大阪府	小計	三	一	二
神戶市	小計	三	一	二
兵衛	小計	三	一	二
計		八		

長新 崎群 千茨 栃奈 三愛 靜山 滋岐

崎瀨 玉馬 葉城 木良 重知 岡梨 賀阜

長崎	四	一	一	一	一	一
新潟	一	一	一	一	一	一
崎瀨	一	一	一	一	一	一
玉馬	一	一	一	一	一	一
葉城	一	一	一	一	一	一
木良	一	一	一	一	一	一
重知	一	一	一	一	一	一
岡梨	一	一	一	一	一	一
賀阜	一	一	一	一	一	一
計	五	一	一	一	一	一

山	和	德	香	愛	高	福	大	佐	熊	宮	鹿	沖	合
歌											兒		
計	山	島	川	媛	知	岡	分	賀	本	崎	島	繩	
													一八
													八
													二
													二八

長	宮	福	岩	青	山	秋	福	石	富	島	島	岡	廣
野	城	島	手	森	形	田	井	川	山	取	根	山	島
													二
													二
													二
													二

卒業生及其就職ノ場所

明治三十四年卒業(二十三人)

●印ハ死亡者ナリ

東京海上保險株式會社 小野 十郎 東京
 市立名古屋商業學校 村 瀨 圭 愛知
 釜山公立商業專修學校 北川勝次郎 滋賀
 文部省 泉屋清次郎 石川
 島根縣立商業學校 近藤達二郎 京都
 七尾町立商業學校 田 中 融 島根
 關西甲種商業學校 伊藤 資 生 宮城
 山口改 瀨戶口竹二 佐賀
 私立中央商業學校 增澤寅次郎 新潟
 自家營業 松村明敏 栃木
 株式會社住友銀行 打田喜代太郎 三重
 白井源吉 鳥取

●鈴木新次郎 靜岡
 織田改 岩田 眞 一 福井
 神戶市神港商業學校 福士德平 岩手
 釜山實業學校 足達丑六 高知
 神戶市立商業補習學校 高山經慶 愛媛
 官立仁川實業學校 長田捨藏 兵庫
 合資會社高田商會(大阪支店) 寄田龍彦 愛知
 市立名古屋商業學校 井上廣太郎 香川
 香川縣立商業學校 根岸近仁 新潟
 石川縣七尾町立商業學校 加 藤 耕 福井
 三重縣立四日市商業學校 松本喜一 富山
 私立東洋協會大連商業學校 同三十六年卒業(二十七人)
 熊本縣立商業學校 村 瀨 玄 愛知

長野縣長野市立甲種商業學校

九山辨三郎 長野
 ●竹内正太郎 靜岡
 川村 瓊 一 東京
 株式會社名古屋銀行 加藤子郎 靜岡
 私立明星商業學校 野田益太郎 兵庫
 兵庫縣立神戸商業學校 桑田仙之助 兵庫
 岐阜市立岐阜商業學校 曾我智道 靜岡
 靜岡縣靜岡市立靜岡商業學校 黒川 善 一 東京
 北海道廳立函館商業學校 小室 洵 一 栃木
 市立金澤商業學校 早藤石太郎 福井
 大阪市立甲種商業學校 松尾慶次郎 京都
 靜岡縣濱松町立濱松商業學校 市川友三郎 靜岡
 福岡市立福岡商業學校 森改 田中千代松 愛知
 三井物産株式會社(橫濱支店) 鷺見基助 岡山

釜山實業學校

岩林喜之助 兵庫
 米澤市立商業學校 金山永三郎 島根
 ●吉田茂太郎 香川
 私立大阪商業學校 小 瀧 勝 香川
 宮本實藏 熊本
 村上乙彦 熊本
 北山喜一 大分
 川島馬太郎 高知
 高木脩吉 福岡
 廣島縣立尾道商業學校 河地大輔 山口
 追 試 驗
 愛媛縣立八幡濱商業學校 岩野由岐太 德島
 飯田豐次郎 富山
 同三十八年卒業(二十六人)

橫濱市本町十三ヶ町立商業學校
三五公司(上海)
株式會社三井銀行
群馬縣高崎市立甲種商業學校
德島縣立商業學校
品川白煉瓦株式會社(大阪支店)
新潟縣刈羽郡立商業學校
島根縣立商業學校
海外遊學
福岡市立福岡商業學校
熊本縣立商業學校
橫濱市本町外十三ヶ町立商業學校

長野 廉二 岡山
森 富次郎 滋賀
竹本 節藏 廣島
石川改
山本 知太郎 東京
柴山 清作 栃木
近藤 英三 德島
松田 喜三郎 三重
川尻改
吉 永專 吉 三重
廣田 嘉一 愛媛
山本 廉二郎 島根
宮島 賢次郎 千葉
平和 長之助 島根
谷口 實次 愛媛
唯野 真琴 福島

靜岡縣靜岡市立靜岡商業學校
東京帽子株式會社
公立仁川實業學校
新潟縣立商業商船學校
善隣商業學校
萬歲生命保險株式會社(名古屋支店)
京都市立京都第一商業學校
宮崎縣北縣郡都城町立商業學校
滋賀縣立神崎郡立商業學校
橫濱正金銀行(東京支店)
仁川公立商業專修學校
同四十年卒業(二十九人)
熊本縣立商業學校

石井 清之助 三重
鹽田 近太郎 香川
安田 久之助 岐阜
伊藤 最一 香川
早川 小三郎改
竹田 正己 神奈川
諏訪 原義衛 千葉
松田 新太郎 靜岡
住登 勝藏 德島
吉田 光藏 德島
篠澤 春太郎 愛媛
栗原 重康 福井
齋藤 晴治郎 香川
瀨谷 佐次郎 福島

京都市立商業實修學校
山形縣飽海郡酒田尋常高等小學校
釜山商業專修學校
大阪鐵工所
青森市立商業學校
岐阜市立商業學校
靜岡縣沼津町立沼津商業學校
茨城縣那珂郡町立湊商業學校
市立長崎商業學校
久留米市立久留米商業學校
岐阜市立商業學校

勝田 梧郎 茨城
梶原 壽一 愛媛
水口 音三郎 德島
村田 長太郎 福井
藤田改
小原 政市 德島
岩瀨 脩治 千葉
竹下 長之 島根
佐藤 善次郎 宮城
江渡 哲太郎 青森
眞家 善三郎 愛知
稻葉 鶴次 靜岡
辻 文八 長崎
楠木 音次郎 三重
室井改
星 理作 福島

市立名古屋商業學校
新潟縣南蒲原郡立三條商工學校
佐賀縣西松浦郡立伊萬里商業學校
新潟縣刈羽郡立商業學校
住友電線製造所
三越吳服店
市立長崎商業學校
滋賀縣立八幡商業學校
鹿兒島市立鹿兒島商業學校
善鄰商業學校
新潟縣西蒲原郡間瀬銅山
自家營業

內田 德彦 愛知
岩間 茂次郎 巖手
江口 恕一 佐賀
山口 泰藏 東京
喜多野 常太郎 和歌山
西村 義郎 京都
倉本 進 千葉
山本 規 福岡
太田 武三郎 滋賀
鈴木 源德 東京
高津 範 千葉
小黒 省三 福島
依知 川治 千葉
飯田 啓三 愛知

同四十二年卒業(二十九人)

久留米市立久留米商業學校	山手官藏	福岡
愛知縣第一師範學校	高橋福三	岐阜
山形縣米澤市立商業學校	櫻井吉雄	茨城
鹿兒島市立商業學校	水口庄三郎	德島
長野縣長野市立甲種商業學校	玉木勝次郎	德島
千葉縣立銚子商業學校	長谷川正致	千葉
宮城縣牡鹿郡石巻町立商業補習學校	大和田誠壽	福島
岐阜縣師範學校	加藤改 鶴飼喜平	岐阜
茨城縣立商業學校	楠間龜楠	和歌山
市立高岡商業學校	下妻貞雄	新潟
京都市立商工補習學校	武田住太郎	愛媛
栃木縣立商業學校	大山綱志	鹿兒島
	眞下紀太郎	群馬

京都市立商業實習學校	橋本正路	兵庫
福井市立商業學校	北里善從	熊本
德島縣師範學校	堀江彦太郎	愛知
私立大阪商業學校	川上準一	德島
新潟縣新潟師範學校	富中參三郎	和歌山
山口銀行(大坂市)	澁谷正秀	富山
京都市立商業實習學校	山崎清記	山口
長岡市立商業學校	西藤杉松	滋賀
熊本市立實科高等女學校	久保田敬太郎	新潟
山口銀行	福島新藏	熊本
市立甲府商業學校	萩原駒藏	滋賀
東京市神田高等小學校	谷貝清一	岐阜
長野縣下高井郡立農商學校	渡邊進	茨城
	金野榮	岩手

同四十四年(二十九人)

興業貯蓄銀行	羽賀鶴松	德島
福岡縣田川郡小學校	重藤一郎	福岡
京都市立商業實習學校	錫村審	新潟
濱松市立商業學校	千布次郎	佐賀
愛知縣名古屋市第九高等小學校	高橋米造	東京
鹿兒島縣師範學校	大塚貞雄	兵庫
群馬縣師範學校	小谷大治	高知
大垣町立大垣商業學校	伊藤治平	愛知
京都市立商業實習學校	久保重德	愛媛
兵庫縣立神戸商業學校	藤森類之助	香川
山形縣米澤市立商業學校	林嘉七	岐阜
西松浦郡立伊萬里商業學校	淵清八	佐賀
靜岡縣沼津町立沼津商業學校	宮本龜藏	靜岡

朝鮮元山小學校	竹内勝彌	群馬
私立吉備商業學校	富永保	福岡
若松市立商業學校	永井忠	茨城
日本毛織會社	日下勝治郎	兵庫
安東縣安東實業學校	西川隆一	愛知
滿韓鹽業株式會社夾心子出張所	加藤止孝	秋田
滋賀縣神崎郡立商業學校	三浦安藏	滋賀
福井縣師範學校	矢島秀三	福井
堺セルロイド株式會社	門山廣明	山形
北海道師範學校	中岡俊造	奈良
山形縣飽海郡酒田尋常高等小學校	小堤健雄	福島
宇都宮市立商業學校	田村武三郎	栃木
朝鮮元山公立簡易商業專修學校	高橋清	群馬
	萩原仙政	富山

卒業生府縣別表

新	埼	群	千	茨	栃	奈	三	愛	靜	山	滋	岐	長
海	馬	葉	城	木	良	重	知	岡	梨	賀	阜	野	
四	一	七	三	三	五	八	七	一	五	一	四		
一	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
五	四	七	四	四	一	五	九	八	六	一	五		

卒業生府縣別表

道	府	縣	自明治三十四年 至同四十二年卒業	同	四十四年卒業	合	計
北	東	京	大	神	兵	長	
海		奈					
道	道	京	都	阪	川	庫	崎
一	六	三	一	五	一		
一	一	一	一	一	一	一	一
七	三	七	一	一	一	一	一

札幌區立商業補習學校
盛岡市立商業學校
東京市明川高等小學校

伊藤勇 吉富山
澤 匡 明德島
西山種男 高知

追 試 驗
姫路市立姫路商業學校
金子源三郎 群馬
合計百六十三人

和歌山	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	大分	佐賀	熊本	宮崎	鹿兒島	沖縄	合計
三	九	六	六	二	四	一	二	四	一	一	一	三二
一	一	一	一	三	一	二	二	一	一	一	一	二九
〇	七	七	五	五	一	四	四	一	一	一	一	一六三

宮城	福島	巖手	青森	山形	秋田	福井	石川	富山	鳥取	島根	岡山	廣島	山梨
二	六	三	一	一	一	五	一	三	一	二	一	二	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二	七	三	一	一	一	六	一	五	一	二	一	二	一